



	新学術領域「配偶子インテグリティの構築」「全能性プログラム」合同公開シンポジウム
	ショウジョウバエにおける生殖系列の品質管理機構
	<p>○<u>太田龍馬</u>¹、<u>小林悟</u>²</p> <p>1: 帝京大学 理工学部 バイオサイエンス学科 2: 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター (○は発表者、アンダーラインは本学教員)</p>
	<p>有性生殖を行う多くの動物は、生殖細胞(卵と精子)を作り出し、それらを受精させることで次世代を生み出します。したがって、DNAに損傷を受けた異常な生殖細胞が作られてしまうと、正常な次世代が生み出されなくなってしまいます。それを防ぐ機構として、生殖細胞が作られる過程で質の悪い細胞を排除し、質の良い細胞だけを残すという品質管理の仕組みがあると考えられてきましたが、その分子メカニズムはほとんど明らかになっていませんでした。本発表では、1)この品質管理機構にMyc遺伝子が関わること、2) 質の低下した生殖系列細胞(生殖細胞になる細胞)においてMyc遺伝子の発現が低下し排除されること、を報告しました。本研究成果は、生殖細胞の品質を制御する分子メカニズム解明の重要な一歩になると期待できます。</p> <p>本研究は、科学研究費補助金(25114002および18H05552の一部)の支援を受けて行ったものであり、筑波大学との共同研究により行われました。</p>